

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472700499
法人名	有限会社 トゥインクル・ライフ
事業所名	グループホームみづき
訪問調査日	平成19年9月27日
評価確定日	平成19年10月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472700499号
法人名	有限会社 トウインクル・ライフ
事業所名	グループホーム みづき
所在地	三浦市三崎町諸磯 42-5 (電話) 046-881-5979

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	11	常勤	5人	非常勤 6人 常勤換算 5.1人

(2) 建物概要

建物構造	(木)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4.5~6.0万円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (8月 21日 現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7歳	最低	79歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村内科クリニック、横須賀市立市民病院、田澤歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、三浦半島油壺の近くに所在し、三崎のまぐろと三浦の大地で大根やスイカ、キャベツ等の野菜が収穫されるのどかな町並みにあります。平成17年8月に一般住宅を改修して開設され、約2年が経過したグループホームです。
食材は新鮮で安全な旬の無農薬野菜等を仕入れ、お米は自前で5分づき精米とし、利用者の好みと栄養を考慮したメニューを工夫し、職員が利用者と共に調理をしています。その結果、最近では胃腸の働きが活発となり、A.D.Lが良好になっています。全室は畳の間で、布団を敷き自力での起き上がりと座り込みにより、足腰を強くし、食卓も座卓を使用するなど「和の生活」を主とし、毎日の動作がリハビリとなり、介護度が改善された利用者もいます。
利用者は、本人の力の発揮と安全面を考慮した環境の中で安心して暮らしてい

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の取り組み課題等は、改善されています。薬や洗剤の保管管理については、薬は鍵の掛かるロッカーに、洗剤等は手が届きにくい場所にそれぞれ保管管理するように改められました。市町村との関わりについては、家族介護教室等の受託には、行政からの受託を受ける必要があり、今後の課題となっています。なお、地域包括センターとの協働で地域資源の活用を必要に応じて対応できる体制となっています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、評価の意義を理解し、全職員が自己評価に取り組み、職員間で話し合い、気づきに発展するように働きかけています。年一回の評価を事業所の質の確保に活かしていくように、計画的、継続的に取り組み、ねらいや活用方法を理解し、有効に活用するように努めています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に一度行い、前回評価の結果や外部評価に対する意義を話し合い、サービスの質の向上に役立てています。今後も事業所は、地域の情報や支援に関する情報交換と協力関係を築いて事業所の運営に反映させていく取り組みを続けています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月家族会が開催され、気軽に要望や意見を話し合える機会を設けています。また、家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況を話し合い、写真や行事のビデオを観て、些細なことでも相互に連絡を取り合っています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設長以下職員は、事業所の力を生かした地域貢献や地元の人々との交流を常に考え実行していく取り組みをしています。そして、地域の方が事業所に気軽に立ち寄り易い、明るい雰囲気となるように努めています。一時中断した、小学生との交流を再開し、地域行事やイベントにも積極的に参加することにより、地域との連携をより一層深めて行くことが期待されます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立支援を大きな柱としている。利用者が、日々変化する中で、利用者に合わせ、臨機応変に対応できるようにしている。そして、認知症の人には何が大切かを考え、地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように、見守り重視の支援に心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々利用者と関わる際に、見守りを重視し、職員間で毎朝ショートミーティングやカンファレンスを行っている。そして、毎月1回全職員参加の全体会議でも、理念を伝え、理解を深めるように話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族会や運営推進会議の際に、家族や地域の人々の理解と協力を呼びかけている。近隣の人に気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりにも努めている。近隣の小学校との交流、夏休み中の飼育当番の手伝い、草花の水遣り等を行い、地域住民の一員として共に暮らしていくことを検討しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分に理解している。自己評価は職員全員に配布し各自が項目について記入後、施設長がまとめるなど、全員で取り組むことで、職員の意識合わせやケアの振り返りと見直し、サービスの質の確保に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は約2ヶ月に一度開催し、幅広い立場の人が参加し、多くの率直な意見や話し合いをしている。前回の評価結果で明らかになった課題を報告し、取り組む懸案事項や取り組んでいる内容についても話し合いを行い、地域の理解と支援を得る貴重な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当窓口には、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝え、運営推進会議についても協力を得てより一層の理解と支援を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は毎月開催し、利用者の暮らしぶりや事業所の行事について写真やビデオを放映して報告と話し合いを行っている。また、家族の来訪時にも利用者の心身の状況や生活ぶりを伝え、毎月一回発行の広報誌「みづき通信」も送付し、利用者の生活ぶり等を定期的に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や要望があれば、ミーティングで話し合い、事業所の運営に反映させていく取り組み体制ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等で、替わるときは、利用者や職員との馴染みの関係を考慮して、利用者や家族の不安を最小限に抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の育成の重要性を認識し、施設内研修は、毎月のミーティング時にビデオ等で学習し、話し合いを行い、実践に向けた研修を行っている。外部研修は、年間研修スケジュール表を掲示し、職員の希望する研修を受講できるように積極的に配慮している。研修後は研修内容をミーティング時に報告し、全職員が共有できるように努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの連絡会があり、事業所の個々の課題や職員の相互訪問を通して良い点や改善点等を学びサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心してサービスを利用できるように、事業所に来訪後、体験入所し、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら、本格的な利用に移って行くように話し合いながら調整を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が地域の中で、その人らしく暮らし続けることができるように、入所時に知った情報をもとにして、食事の支度、洗濯、畑仕事等の本人の得意とする分野で力を発揮してもらい、お互いにいたわりを大切に、励まし合い見守りを重視しながら支援している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者がその人らしく安心して生活することができるように、行動、態度、表情をよく観察し、内面も洞察するように努めている。そして、可能な限り本人の意向に沿った支援を行い、表出が困難な方でも日々の表情から汲み取り、本人の視点に立って、意思が引き出せるような声かけや支援を心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者、家族と話し合った上で、ICF(国際生活機能分類)に基づいて「やれるように」「できるように」等、利用者本位のプラン作りを行なっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、毎月の介護経過と共に全体ミーティングやカンファレンスにて見直しを行い、常に介護計画が実情に応じたケアにつながるように、必要に応じて適時変更や追加を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師および看護師等との「医療連携体制」を活かして、利用者が事業所内で継続して生活できるように必要なサービスを提供している。 また、ターミナルケア等をグループホームにおける現行の制度上行える支援は可能な限り行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所のかかりつけ医の診察を受けているが、利用者や家族との話し合いにより、希望があれば、入所前からのかかりつけ医の受診も柔軟に対応している。 歯科医の往診も行なわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員全員が利用者や家族が希望する終末期のあり方について方針を共有している。入所時に事業所の考え方や重度化した際に終末期の受け入れも可能であることを伝えている。同時に事業所のかかりつけ医のターミナルケアに対する方針も説明し同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する気配り、気遣いを心がけ、目立たずさりげない対応に配慮している。記録類や個人情報類は事務室の鍵のかかる引き出しに保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分の生活リズムやペースで思い思いに過ごしている。職員は他の利用者との関わりにも配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に確認し合いながら、旬の食材を調理から後片付けまで行ない、食事は職員も利用者と同じ座卓で料理を囲み、和気あいあいとおしゃべりしながら楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週2回と決めているが、本人の希望があれば、心身状態に合わせていつでも入浴できるように支援している。入浴拒否のある方は、無理強いせず、タイミングをみて声かけや誘導を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な調理、裁縫、掃除、畑仕事等を張り合いを持って行なえるように、環境や安全面に配慮しつつ支援している。 利用者は、畑から採れた青じその下ごしらえやお米を5分づきに精米する等日常生活の中で自然に働く姿が確認された。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は天候や体調を見ながら、散歩や近所のスーパーマーケット等へ出かけている。 事業所の芝生の庭にごさを敷き、お茶やおやつを楽しみ、戸外の空気を吸う機会を作るように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者の行動を制限することなく、見守りを重視し、安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練は年間計画をきちんと立て、消防署の協力を得て消火設備点検等も行い、また、図上研究(夜間時における図面上の避難経路を研究)も行っている。緊急連絡網も事務所に掲示し、非常食等災害時必要な備品もストックされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は無農薬、有機栽培の物を選び、管理栄養士の指導のもとカロリー計算や栄養バランスを考えている。その日の摂取量を個別総括表に記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家の改装は必要最小限に止め、「和の生活」を基本とする空間作りとなっている。手すりは、トイレ、浴室等にあり、必要以上に設けておらず、自分の力でその人らしく活動がし易いように工夫し介護度が改善されている。 玄関やリビングに季節の花が飾られ、リビングは日当たりや通風もよく、くつろげる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物は、居室に持ち込み、その人らしく居心地のよい居室となっている。私物はほとんどクローゼットに収納されているため多少殺風景な感があるが、利用者の身体状況、環境に配慮した居室となっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみづき
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市
記入者名 (管理者)	岡田尚子
記入日	平成 19 年 8 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人達と情報を共有出来るよう会合を開いている。 ・認知症の方も健常者の方向様に対応している。 ・固定的な理念ではなく日々変化する利用者に合わせてその都度臨機応変に対応できるように複数あげられている。 ・気配り心配りに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを作成し、会合の参加を呼びかけている。 ・はっきり伝えることにより機能向上となり認知症も軽減されている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で話し合いの時間をもち意識付けを行なっている。 ・疑問点があった場合、その日の勤務スタッフでミーティングを行なう。 ・毎月一回全職員による全体ミーティングにて理念を共有すると共に実践に向けた対応方法を話し合いを通じて決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念が共有できるようこまめに話し合いをしている。 ・スタッフ一人一人が理解出来るよう努力している。 ・毎朝のショートミーティングやカンファレンスでもその都度話し合いが行なわれている。 ・毎月のミーティング、研修会を開いて相互の意見交換、解らない事への指導もしていただいております。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から機会を捉えて理念を伝える工夫をしている。 ・地域の人々に会合の参加を呼び掛けている。 ・家族会や運営推進会を通じて事業所の考え方や取り組み等を発表し理解と協力を求めている。 	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりをしている。 ・回覧板を回すなど、近所との関係を深めるよう努力をしている。 ・散歩や買い物等の外出時に、すれ違う方から積極的に挨拶や言葉掛けを行い、顔見知りの関係を築けるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の方はなかなか気軽に立ち寄っていただく事は難しいが、野菜や花等を時々持って来てくれる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加出来ないか検討している。 ・利用者の状態に応じて、無理なく可能な限り地域行事に参加し地域に溶け込めるように努めている。又、町内会に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加可能なイベントがないか情報収集している。 ・近所に小学校があり、子供達との交流(学校行事の参加、通学の見守り等)を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・気軽に参加して頂けるようなお茶のみ会を開催し、認知症についての勉強会や、在宅介護の中で困った事や、相談等を利用者のご家族を含め地域の方々に呼びかけを行なっていく取り組みを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員間で話し合いの場を持ち、自己評価に取り組んでいる。 ・評価の意義について知ってはいても職員全員が理解できていないかも知れない。		・課題について改善出来るよう検討している。 ・今回の評価結果を基に再検討し、職員全員がサービス評価の意義を理解すると共に改善に向けて取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・前回の評価結果や広報誌の提示を行なっている。又、当事業所で今まであった事例を報告すると共に、議題の中に今後の取り組みとして、どのようにして行けば良いか意見を求める項目を設けている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・定期連絡報告等。		・今後交流の機会が提示できるよう検討する。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・広報誌により取り上げたことはあるが、話し合いや支援により活用するまではしていない。		・今後これらの制度について学ぶ機会を設けるよう取り組んでいく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修の参加及び、内部研修(全体ミーティング)等により理解がされていると考えられる。 ・研修会に参加し、知識は各々持っており、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・現在、契約や解約について苦情等は無く、概ね出来ていると考えられる。 ・理解、納得されるよう、十分な説明を行い、疑問、不安点は解消されるまで何度も質問を受けている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日頃の言動から不安、不満に思っている事がないが意向を探っている。 ・普段から何でも言い合える関係をつくる事に気を配り、利用者が安心して話せる体制を整えている。又、それらをその場で出来る事は即解決し、即解決が困難なことに関しては、ミーティング等で対応を図っている。		・利用者が不安を持っていたり、不満があった場合は上司に報告している。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月家族会が行なわれている。 ・毎月の家族会、広報誌の発行、面会時にちょっとした変化や生活状況の報告を行なう。又、些細な事でもその都度電話連絡を行い報告する等、そのご家族に合わせた報告を行なっている。		・普段の暮らしぶりを写真やビデオを通し面会時等に観ていただいている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎月家族会が行なわれている。 ・上記14項目の実施を通し、気軽に話して頂けるような関係を日頃から作るよう努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・意見が言いやすくなる雰囲気がある。 ・全体ミーティングやその都度の話し合いにより概ね出来ている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・24時間365日途切れることのないような人員配置を行なっている。又、緊急時でも迅速にカバーできるような体制が整っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・概ねその様になっていると思われる。 ・離職等で職員が代わった時も「今日は勤務日ではない」「しばらくお休みする」等の説明をし、利用者へのダメージを抑える。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月の全体ミーティングや施設内研修を通じて行なわれている。又、外部研修にも積極的に参加できるように配慮されている。 ・事業所内で時に応じて一人一人ビデオを見たり、意見を聞きその意見がどの段階に応じているのか等をトレーニングしている。		・各利用者さんに応じた指導をその都度(トイレ・入浴・移動等)行なっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設間で相互訪問をする機会があった。 ・地域のグループホーム連絡協議会に参加し交流を持つと共に、全国規模の協議会にも参加し発表する機会を作っている。		・相互訪問し意見交換を出来た。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・その都度個別に話し合いの場を作り、対応されていると思う。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・概ねされていると思う。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・日頃から会話をする時間を持ち、不安な事などご本人から聴くようにしている。 ・日頃から何でも話せる関係作りを心掛けると共に、ゆっくりと利用者が自分を話せる時間(機会)を作っている。		・時間を掛け信頼関係をつくれるよう努める。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・まず家族の話をじっくりと聞き、状況・環境・ニーズをキチンと把握し、気軽に相談できる関係を築くことに努め、不安なことや求めていることにはその都度可能な限り迅速に対応できるように取り組まれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・可能な限り本人、家族の希望を叶えられるように話し合い、共に検討し柔軟にケア出来る様に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・繰り返し状況を説明し、本人が納得して貰えるように努めると共に場合によってはご家族とともに本人の不安感を軽減できるような取り組み等を行ないながら、時間を掛けて行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・毎日一緒に会話をし、食事をして不安や喜びを共有できるよう心掛けている。 ・その方の得意なことや経験(知識)を発揮して頂ける場面を見つけ、共に作業や会話を通じて楽しみながら学んだり、助けられたりすることをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者支援の為に積極的に参加・協力して頂けるように密に連絡を取り、信頼関係を築くことに努め、行事や家族会等その都度呼びかけを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人とご家族の関係を考慮しつつ、利用者に近い立場の第三者として両者の仲を取り持っていけるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・基本的に制限はなく、本人やご家族の意向に沿って支援を行なっている。事業所としては可能な限り大勢の人に関わっていただけるように呼びかけをおこなっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・お互いに声を掛けたり、一緒に笑えるような空気をつくるよう心掛けている。 ・会話や作業、行事等で対職員にばかりにならないように心がけ、同じ仲間として共同生活が送れるように相互に関わりを持って頂けるような関係作りに努めている。		・困った事や不安があれば助け合って生活できるような場をつくっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退去された方(ご家族)でも行事や家族会等、気軽に訪れて頂けるように積極的に呼びかけを行っている。又、実際に外部の発表会に参加し協力いただいたご家族もいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の言動や行動から、ご本人の意向などを探っていく。 ・本人の意志、自己決定を尊重し、可能な限り本人の意向に沿った支援が行なわれている。困難な方でも可能な限り本人の意志を引き出せるように声掛けや、環境を整えることに努めている。		・安心して生活していただけるよう職員で話し合いをする。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時にご家族に必要な記録をお願いし、情報を可能な限り詳しく引き出し、把握に努めている。入居後も面会時等にご家族、友人にお話を伺い、継続して情報の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・その人の生活リズム、習慣などを把握していく。 ・毎日の個人記録や業務日誌を通してその人の生活状況を把握すると共に、その都度ショートミーティング、申し送り等を行い細かい変化も職員全員が現状把握できるように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は、本人とご家族の意向を伺った上で、ICWに基づいて「～出来る、～をやりたい」等、本人主体の計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は職員個々に担当を持ち、毎月の介護経過と共に、全体ミーティングやカンファレンスにおいて、その都度見直しを行い、必要に応じて適時変更や追加を行なっている。		・記録の書き方や、介護記録について学ぶ機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に記録を記入し、情報を共有できるようにしている。 ・毎日の個人記録、業務日誌の記録がある。		・ケアプラン作成の参考にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・現段階で事業所として行なえる事は可能な限り行なっていると思う。(ターミナルケア・ショートステイの受け入れ等)		・当事業所は小規模多機能ではなく、グループホームであるため、現行の制度上限界もある。可能であれば他にも積極的に活動して行きたいが…。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会等で一部の地域の方々には呼びかけを行い参加して頂いている。		・運営推進会以外でも、こちらから呼びかけて行く努力が必要であるが、人員や時間、本人の意向等がうまくかみ合わず検討が必要。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人や家族の希望があれば、その他必要に応じて柔軟に対応できるようになっていると思う。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・本人や家族の希望があれば、その他必要に応じて柔軟に対応できるようになっていると思う。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人の希望があればかかりつけの医者への受診を行なう。 ・かかりつけ医によって往診の有無がある為、基本的に事業所のかかりつけ医に受診して頂いているが、本人やご家族との話し合いにより入居前からのかかりつけ医をそのまま受けて頂くことも可能である。		・ご家族と連絡を取り合い、希望される受診が出来るよう支援する。 ・希望や状況に応じて歯科往診等も行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・24時間対応の在宅医師との連携で、随時対応出来る様になっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・週に一度事業所の看護師が利用者の状態を診に来ている。又、万が一に備え、24時間体制で指示を受けられるようになっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・現在まで当事業所において入居後に入院された例がないが、万が一そのような場合でも常に連携がとれるように日頃から取り組んでいる。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ご本人やご家族が希望される終末の迎え方が送れるよう、職員全員が方針を共有している。 ・入居時や重度化した際に終末期の受け入れも可能であることを伝えていると同時に事業所、かかりつけ医の方針を説明し、同意していただいている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・安心して終末期を過ごせるよう職員間で情報を共有し、方針に沿った介護を行なう。 ・その方のあるがままを受け入れ、ご家族、医師、職員が一体となってケアに取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・可能な限り事前に本人と会い、様子を伺ったりご家族に話を伺ったりしている。又、移動時には看護サマリーや介護サマリーを受け、十分に状況把握に努め、円滑に移動がなされるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・さりげない対応を心がけ、ご本人が傷ついたりしないよう注意する。・共同生活の中で暮らして行く為に、著しくマナーを損ねる様な行為等には状況に応じその場で注意を促すこともある。記録、個人情報に関しては、家族同意の下で守秘義務の徹底がなされている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・一人一人出来る事、出来ない事が違うのでその人に合った生活が出来るよう支援していく。・押し付けにならないように、可能な限り自分で選択、決定して頂けるように努めていく。</p>	<p>・日常の会話や行動から支援内容を判断していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・その人に合ったペースで生活をしていただく。 ・基本的には本人の意志に沿って日々過ごされている。職員は、提案という形で様子を伺いながら支援を行なうようにしている。</p>	<p>・極力一人一人のペースを大切にしているが、共同生活ということで他の利用者との兼ね合いもありその中で支援していく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・毎月理容のボランティアの方に整髪していただいている。 ・更衣に関しては、可能な限り本人の意思を尊重し、支援を行なっている。理容に関してはボランティアの方に一括して行なっている。</p>	<p>・その人に合ったオシャレを楽しんでいただけるよう努力していく。・理容については本人やご家族との話し合いで希望のお店に行く方も以前はいた。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・切り物から調理まで職員と力を合わせ食事の支度をしている。 ・その方の得意な所を活かしながら無理なく参加していただいている。毎食職員が利用者と同じものを共に食している。 ・味付け、盛り付け配膳などを利用者と確認し合い、調理を楽しむ。</p>	<p>・職員も同じテーブルについて食事をしている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・日常の楽しみとして嗜好品を取り入れている。 ・安全に配慮しつつ、可能な限り本人の希望に沿った支援をしている。</p>	<p>・ほどほどの範囲で楽しんでいただく。 ・管理できる方は自室で、出来ない方は事業所で預り、希望時に渡している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・気持ちよく用を足して頂けるよう、さりげない支援を行なっている。 ・職員は日々の記録等により、一人一人の排泄パターンを概ね把握している。又、排泄状況の段階に応じてパンツの種類を適宜変更していける様にしている。		・失禁等をして、ご本人が傷つかないよう配慮しながら処理をする。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・それぞれの方の希望に合わせて入浴していただいている。 ・基本的には入浴日を決めているが本人の希望があれば随時行なっている。入浴拒否がある場合等も無理強いせず、清拭や足浴、下着の交換等を臨機応変に行なう。		・本人の気持ちが乗ってくるような声掛けや、誘導を工夫して行なっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・畳に布団というスタイルで安眠していただいている。 ・休息等は基本的に本人の意思に沿って行われている。だが、著しく生活リズムが崩れないよう(昼夜逆転)に体調、様子等と観察しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・張り合いのできる仕事や用事をなるべく毎日して、楽しく生活していけるよう支援している。 ・本人の得意なことや好きなことを、やりがいを持って行なってもらえるように環境や、安全に配慮しつつ本人のペースで楽しんでもらえるように努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・散歩を兼ねて近所のスーパー等へ、数日に一度職員と共に掛かけ、好きな菓子等買い物をしていただいている。 ・買い物の際は本人に持たせていただくが、基本的に事業所で管理を行なっている。		・事業所内での多額の金銭管理は他の利用者や職員への不信感へとつながる為、ご家族の同意の下、本人が管理できる範囲で所持していただいている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日はそれぞれ散歩に出たり、庭でのんびりしたりお茶を飲む等している。 ・基本的に本人の希望通りに行っている。天気や体調をみて外に出していただけるように当日勤務の職員で連携し声掛け促しを行っている。		・少なくとも午前、午後と2回散歩を楽しんで頂いている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・可能な限り支援を行なっているが、ご家族の事情やその他のやむを得ない場合がある。 ・行事にて花見や外での食事、畑へも度々行っている。		・ご家族との話し合いの中で機会を作り支援していける様に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行なう。 ・特に制限はしておらず、ご希望に応じて自由に行なえるようにしている。時には代筆を行なう事もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・気軽に訪問して頂けるような雰囲気を中心掛けている。いつでも気軽に来て頂けるように、面会時間の制限や人物の特定は行なっていない。各居室にて面会していただけるように案内するが、面会者や本人の希望で柔軟に対応している。		・ゆっくりと利用者と話をして頂けるよう静かな環境を整えている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全ての職員が理解しているとは言えないかもしれないが、身体拘束の概念は無い。また、現在当事業所内において身体拘束の類は無い。		・内外研修の参加、実施等により職員がきちんと理解するように取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室、玄関共にカギはかけていない。 ・日中玄関や門は開放している。職員は常に利用者の所在を把握することに努め、監視ではなく見守りにて対応を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜見守りにて所在を把握している。 ・必要最小限の見守りにて対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人一人の状況に合わせて物品の使用を見ている。 ・「危険だから」と、無くすのではなく日常の状態を個別に把握し、状況にあわせて、見守り強化等を行い対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・移動中などはそばで見守りをして、必要に応じ支援をしている。 ・利用者の身体状況を全体ミーティング等で職員全員が把握、共有し、対応方法を確認している。インシデント報告書を作成し、事故やヒヤリハットの防止に取り組んでいる。		・ご本人にも転倒等をしないように声掛けなどで注意を促している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・内部研修にて数回行なっている。		・今後も定期的に行なっていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・事業所内の防災訓練は随時実施されている。		・地域住民への参加も呼びかけているが協力までは実現していない。連携強化に取り組んでいく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・家族会や面会時等にその都度、現在の身体状況を報告し、本人の状態を理解して頂くと共に、今後のケアについての話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日全員の状態観察を行ない、異常がないか見ている。 ・日常の表情、しぐさ、雰囲気を感じ取り、状態の変化に気を配っている。変化が見られた場合は速やかに上司、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。		・異常があれば上司、医師への連絡をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服用している薬の内容を用紙で見え理解している。 ・全体ミーティング等で随時確認を行い、又、薬剤師との連絡帳を通じて密に連携し、職員全員が理解や状態の変化を把握できるように努めている。		・間違いがないように注意をする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・下剤等の使用は極力避け、普段の食事に気を配り、繊維質を多く含む食材を使用したりする等の対応をしている。個別総括表の記録にて、食事の摂取量、排便の確認を日々行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・口腔ケアを毎朝毎晩行なっている。 ・利用者の自己管理能力を尊重し、個別に対応している。		・歯科衛生士等による口腔ケア指導等に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その日の摂取量を個人記録に記録し、把握している。利用者の好みや、嚥下能力に合わせて柔軟に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・外部研修及び、内部研修により理解し、日々予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理用具の衛生管理、安全な食材の使用を心掛けている。 ・日常において衛生管理に気を配るとともに、曜日毎に個別で清掃日を決め実施している。食材担当係りを設置し、メニューや在庫管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関、門戸は日常開放されている。庭や玄関周りは四季に応じて咲くように花や木が植えられている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・静かで自然な環境を整えている。・所々に季節に応じて花が飾られている。又、民家を必要最小限度に改装し、使用していることもあり、在宅の環境に近い空間である。		・更に居心地の良い環境をめざす。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングを常に開放してくつろいでいただけるようにしている。 ・利用者の身体状況や、関係に合わせた席順が決められている。それ以外は特に制限は無く、利用者がそのときの気分で自由に過ごせるようにしている。		・一人でいたいときは居室に、皆と居たいときはリビングにと自由に出入している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・畳の部屋でリラックスしていただけるようにしている。 ・出来る限り本人の馴染みの物や、使い慣れた物を取りいれられている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・基本的に職員が利用者の様子を見ながら、適宜換気や温度調節を行っているが、状況に応じて(利用者が自主的に行なう事もある)柔軟に対応している。		・窓を開け換気、空気の入替えは随時行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・必要最小限度の手摺り、段差はそのまま、の環境であるが、利用者の状況に合わせて一般家庭にある物で工夫し、安全かつご本人の身体機能を活かした生活を送れるように努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・利用者の状態は常に把握しておくように努めている。失敗や混乱については、その都度繰り返し共に行い、又、本人のやりやすい方法を共に考える取り組みをしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭に野菜や花を植えている。 ・鉢植えや野菜作り、草刈りや水やり等を利用者が主体になって、楽しみながら作業していただけるように配慮している。		・採れた野菜は食事で使用している。 ・庭の芝生でラジオ体操を行なっている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食材は体に良い物を（無農薬、有機栽培の物）を厳選し、また、旬の物を取り入れ出来るだけ手を加えず、利用者と共に調理し食している。
- ・一般的な民家を必要最小限の手直しで利用、段差はそのまま、全室畳、ベッドではなく布団を、テーブルではなく座卓を使用する[和の生活]です。その生活の中で自然に残存機能の活用と、ADLの向上を図っています。
- ・24時間対応の在宅医師との連携により、終末の看取りをさせて頂いております。その方のご家族や友人、馴染みの方にも関わり合いを持って頂きながら、その方のあるがままを共に受け入れるケアを行っています。
- ・事業所では畳に布団を使っています、利用者の方々が今迄生活をしてこられた家庭と変りなく大変くつろいでおられます。畳の生活により、自力での起き上がり、座り込みで全神経を生活の中で確実に集中する為リハビリ効果も向上していくと考えております。土いじり（畑）にて、野菜等の成長の喜び、収穫への喜び、精神的に癒され、身体的にも各部の機能向上に自然と役立っています。